

“よりより”ながさき建設女子 ネットワークの構築について

(長崎県の産学官連携による女性技術者・技能者ネットワーク構築)

長崎県 土木部 建設企画課 やまかわ ひでかず
山川 秀和

1. はじめに

長崎県は、九州の西北部に位置し、地形的にも平坦地が乏しく、多くの離島・半島で構成されており、多くの急流や斜面地など多様で個性あふれる地形を有し、アジアに最も近く、独特の歴史・文化が育まれてきました。

また、本年は、平成27年の「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録に加え、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の登録が7月に実現し、国内外からより一層注目されています。

それらのポテンシャルを十分に引き出すとともに、観光交流、農林水産業や製造業等の基幹産業の振興の下支えとなる、広域交通ネットワーク等の社会資本整備を計画的に進めていくことが、地

域が活力を得ていく上で重要です。また、近年、大雨や地震など、日本各地で災害が頻発し、多くの被害に見舞われている状況となっており、より一層の防災・減災への取り組みが必要となっています。それらの計画的な事業推進を行うためには、地域における建設業はなくてはならない存在です。

本県における建設業の状況は、県内の建設業従事者の約半数が50歳以上と高齢化(図-1)が進んでおり、担い手(技術者、技能者)をどのように確保するかが重要な課題となっています。

本県では、担い手確保の方策の1つとして、女性による女性技術者・技能者のネットワーク構築等の女性の入職を促進する取り組みを行っており、ここではその内容について紹介したいと思います。

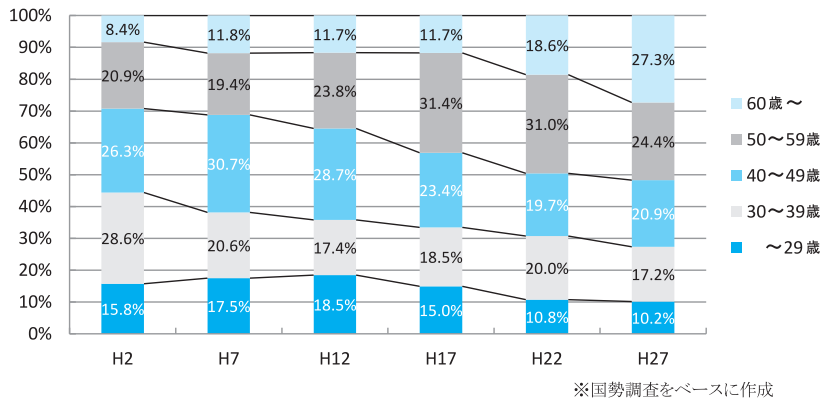


図-1 建設業の年齢構成割合の変化

2. 女性技術者・技能者への取り組みについて

(1) 女性技術者・技能者への取り組み

女性技術者・技能者の取り組みについては、国土交通省において「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」の策定や「女性向けポータルサイト」の立ち上げなど、さまざまな取り組みが行われています。

本県においても、平成26年に設立された産学官連携建設業人材確保育成協議会（以下、「協議会」という）において、担い手不足を解消し、今後の働き手の一翼を担っていただくためには、女性の入職を図っていくことが必要であると考え、下記の項目を進めていくことを決定しているところです。

- ① 女性技術者・技能者ネットワークづくり
 - ・建設に関わる行政・業界の技術者・技能者のネットワークをつくる。
- ② 女性活躍推進検討WG（産学官WG）
 - ・協議会のワーキンググループ（WG）として女性の入職促進、キャリアアップ等のための課題、方向性を産学官で検討していく。
- ③ 女性技術者・技能者情報交換会の開催
 - ・女性が建設現場等で働く際の課題、悩み、改善に向けた工夫などを情報共有し、解決に向けた糸口を探る（職場環境、子育て、育休復帰など）。
- ④ 女性活躍PR
 - ・建設業で活躍する女性をPRし、女性の入職を促進するとともに、建設業のイメージアップを図る（女性を対象とした現場見学会の開催）。

(2) 産学官連携建設業人材確保育成協議会とは

長崎県の建設業の人材の高齢化、後継者不足を解消するため、中長期的な人材確保育成の取り組みのあり方を検討するため、産学官により構成（表-1）された協議会であり、年2～3回の会議を実施しています。

本協議会では、各団体の人材確保育成に関する

表-1 産学官連携建設業人材確保育成協議会委員（平成30年度）

部門別	団体・機関名	職
教育（学）	国立大学法人・長崎大学	名誉教授
	長崎大学大学院工学研究科 インフラ長寿命化センター	センター長
	長崎県立長崎工業高等学校	校長
	（公財）長崎県建設技術研究センター	理事長
行政（官）	厚生労働省長崎労働局職業安定部職業安定課	課長
	国土交通省長崎河川国道事務所	所長
	長崎県土木部	技監
	長崎市中央総合事務所	次長兼課長
建設業（産）	（一社）長崎県建設業協会	会長
	長崎県鉄筋工事業協同組合	理事
	長崎県管工事業協同組合連合会	理事長
	（一社）長崎県測量設計コンサルタンツ協会	会長

取り組みや県内高校生への就職情報などを共有し、担い手の確保につながるような取り組みとして、写真-1に示す「親子の現場見学会」や写真-2に示す「高校・中学校訪問」など、さまざまな活動を行っています。



写真-1 親子でトンネル工事見学



写真-2 中学校訪問

3. 女性技術者・技能者ネットワークの構築について

(1) 女性技術者・技能者ネットワークづくり

長崎県内で働く女性技術者・技能者（建設業、建設関連コンサルタント、研究機関、官公庁）の名簿を作成し、平成 29 年 4 月現在 234 名の女性技術者・技能者ネットワークを構築しています（表-2）。

(2) 女性活躍推進検討 WG（産学官 WG）

女性が働きやすい建設業を目指し、平成 28 年 2 月より産学官の各分野から選ばれた「女性活躍推進検討 WG」13 名（表-3）が中心となり、いろいろな意見を出し合って、今後の活動拡大のための提案・助言や課題解決のための他機関との連携など検討を行っています。

これまで、4 回（平成 29 年 2 月と 9 月、平成 30 年 2 月と 9 月）開催しており（写真-3）、女

表-2 長崎県女性技術者・技能者調査（H29）

団体名	女性人数
(一社) 長崎県建設業協会	67
(一社) 長崎県測量設計コンサルタンツ協会	17
(一社) 長崎県建設コンサルタント協会	6
(一社) 日本補償コンサルタント協会 九州支部長崎県部会	9
(一社) 長崎県中小建設業協会	10
長崎県管工事業協同組合連合会	5
(一社) 長崎県のり面協会	1
(一社) 長崎県ほ装協会	1
(一社) 長崎県造園建設業協会	16
(一社) 長崎県建築士事務所協会	27
(一社) 長崎県地質調査業協会	11
(一社) 長崎県建造物解体工業会	1
大学	4
県関係団体	1
国土交通省	3
長崎県	17
市・町	38
合 計	234

性技術者・技能者ネットワークの愛称の決定（“よりより”～ながさき建設女子ネットワーク～）、ロゴマーク（図-2）の作成、入職促進・定着に

表-3 女性活躍推進検討 WG 委員（平成 30 年度）

産学官	機関・団体名	所属
産 6	(一社) 長崎県建設業協会 (一社) 長崎県造園建設業協会 (一社) 長崎県中小建設業協会 長崎県鉄筋工事業協同組合 (一社) 長崎県建築士事務所協会 (一社) 長崎県測量設計コンサルタンツ協会	竹下建設工業（株） （株）水樹 （株）洗組 事務局長 （株）PAL 構造 太洋技研（株）
学 2	長崎大学 佐世保工業高等学校	大学院工学研究科 建築科
官 5	長崎労働局 長崎河川国道事務所 長崎県 市・町（佐世保市）	職業安定部 工務課 県央振興局 佐世保市



写真-3 女性活躍推進検討 WG（平成 30 年度）



図-2 “よりより”～ながさき建設女子ネットワーク～のロゴマーク

向け産学官で取り組む課題の洗い出しなどを行ってきました。

今後は、活動拡大のための広報活動方法や洗い出した課題の解決策を議論していく予定です。

(3) 女性技術者・技能者情報交換会の開催

平成 29 年度より女性技術者・技能者の親睦を深めることや建設現場等で働く際の課題、悩み、改善に向けた工夫など情報共有を目的として、県内の各地域において交流会を実施しています。

平成 29 年度は、3 カ所（長崎、佐世保、諫早）で開催（写真－4）し、延べ 92 名が参加しました。交流会では、各地域の 1～2 カ所の現場見学、ワークショップ形式の意見交換を行い、「“よりより”～ながさき建設女子ネットワーク～」の交流親睦を深めているところです。

今後は、建設現場への女性進出のアピールのため、一般の女性や女子中高生参加の現場見学会と女性技術者の交流会を共同開催し、女性の入職促進につながるような活動を行っていきたいと考えています。

(4) 女性活躍 PR

これまで土木・建築現場では、なかなか女性の姿を見ることがありませんでした。そこで平成 27 年度より一般の女性や女子中高生を現場に招き、土木・建築の現場（写真－5）への係わりを深めていただくとともに、建設現場への女性進出をアピールすべく女性技術者による講話（写真－6）などを開催しています。

4. おわりに

前述のとおり県内の建設業従事者の高齢化が進んでおり、担い手（技術者、技能者）をどのように確保していくかが重要な課題となっています。その一翼を担う女性の入職および活躍のためには、このような活動が重要と考えています。

建設業界で女性が存在感を示しながら活躍するためには、労働環境整備（更衣室やトイレの整備、休暇や給与と改善、技術力の向上）、人材交流（現場見学会や意見交換の開催、学生との意見交



写真－4 佐世保地区女性技術者の交流会



写真－5 女性のための現場見学会



写真－6 女性県職員による講話

換）、意識改善（男性の意識改善、建設業のイメージアップ）など課題解決が不可欠です。

課題解決には、“よりより”～ながさき建設女子ネットワーク～による女性活躍推進検討 WG や、女性技術者の交流会など女性目線の導入が必要と考えており、これまで建設業界・教育機関・公共機関が三位一体となって取り組んできました。今後もそれぞれの立場の女性技術者・技能者のご協力を得ながら、女性の入職および活躍が促進するように努めていきたいと考えています。